



亀山城多門櫓（建造物）の復原修理について

三重県指定史跡「亀山城多門櫓」については、平成19年4月に発生しました地震により石垣の一部が崩落しましたが、本年6月に復旧復元工事を完了しましたことから、引き続き多門櫓（建造物）について、復原修理を実施するものです。

多門櫓は、三重県で唯一の城郭建築物であり、また、城下町亀山を象徴する極めて貴重な文化財であります。

明治30年、大正6年の改修により現在見られる外観となっておりますが、近年は雨漏りが目立つ等、大規模な修理を必要とする時期を迎えていました。

このことから、平成20年に策定しました「亀山市歴史的風致維持向上計画」に位置づけ、平成21年度には文化財としての調査を行うなど、復原修理の準備を進めてきましたが、この度、文化財を復原修理するに当たっての諸手続きが整いましたことから、国の歴史的環境形成総合支援事業を活用して、工事に着手するものです。

本工事は、文化財調査に基づき、多門櫓が城の一部として実際に使われていた、江戸時代末期の姿へと復原をするものです。工期は平成24年3月までを予定しており、この間、足場の設置等により多門櫓を見ることができなくなるなど、各方面に影響を与えることになるかと思われませんが、城下町亀山のシンボルである亀山城多門櫓の「平成の大修理」が、無事に完了いたしますよう、皆様のご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。